



新年を迎えて



一般財団法人日本ITU協会
理事長

やまかわ てつお
山川 鉄郎

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年2021年は、秋口以降に新型コロナウイルス感染症の感染者数が減少し、社会に落ち着きが見えてきました。今後も動向を見守る必要がありますが、これまで培われ、広く進展してきたテレワークやオンライン会議・ウェビナーの開催などのウィズコロナの生活様式は、その特色を生かしながら継続されることが想定されます。本年が、ICTを用いた新たな動きと大きな活力に満ちた良い一年となるよう期待しています。

昨年の当協会に関わるITU、APT関連の会合やイベントを振り返ってみますと、多くが延期されたり、オンラインでの開催となりました。

当協会では、9月1日にオンライン形式で日本ITU協会創立50周年記念式典を行い、内海善雄様が総務大臣賞と日本ITU協会創立50周年栄誉賞を受賞され、伊藤泰彦様、橋本明様、三浦信様が総務大臣賞と日本ITU協会創立50周年特別賞を受賞されました。また、11名が日本ITU協会創立50周年記念賞を、3名が日本ITU協会賞特別功労賞を受賞されました。ご受賞おめでとうございます。式典の後半では、Houlin Zhao ITU事務総局長、近藤勝則APT事務総長、田原康生総務省国際戦略局長にオンラインで出席いただき、パネルディスカッションを開催しました。

続く11月30日には5月から延期した「世界情報社会・電気通信日のつどい式典」を京王プラザホテルにて開催し、オンラインで配信致しました。式典では、長期にわたりITUやAPTでの国際標準化活動をされた前田洋一様(TTC)が総務大臣賞を受賞され、また、理化学研究所の「富岳」新型コロナウイルス対策プロジェクト 飛沫感染チーム(代表研究者 坪倉誠様/理化学研究所)が特別賞を受賞されました。さらに、9名が功績賞を、16名・4団体が奨励賞を

受賞されました。誠にありがとうございます。

本年は、次世代通信規格5Gによる商用サービスの広がり進化が期待されます。この5GをはじめとするICT技術を通じての社会的課題の解決、Society5.0に向けての飛躍が望まれ、更には世界的な動きであるカーボンニュートラルを意識した活動が求められています。

ITU関連では、3月には世界電気通信標準化会議(WTSA)が、6月には世界電気通信開発会議(WTDC)が開催予定です。また、9月～10月には全権委員会会議(Plenipotentiary Conference)がルーマニアにて開催される節目の年であり、本会議では日本は、電気通信標準化部門の局長候補としてNTT CSSO (Chief Standardization Strategy Officer)の尾上誠蔵(おのえ せいぞう)氏を擁立しており、大変重要な会合となります。当協会は、これまでの経験を基に、ITUやAPTの会合やイベントについて関連する皆様と連携を取りながら、柔軟に対応を進めて参ります。

当協会へのこれまでの長きにわたるご支援に感謝するとともに、今後も日本政府、賛助会員の皆様とITUとの十分な橋渡しができるよう、より一層の努力をして参る所存です。

本年の皆様のご健勝とご活躍を心より祈念致しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



日本ITU協会創立50周年記念式典 「来賓と受賞者」